vintagetechnics.ru

SONY®

ステレオプレーヤーシステム

PS-X30A

取扱説明書

この説明書を読んで正しくお使いください。

説明書と保証書、サービス窓口のしおりはいっしょに保管してください。

© 1979 by Sony Corporation

お買上げいただきありがとうございます。
ソニープレーヤーシステムPS-X30Aはつぎのような特長を備え、操作し易く、音質のよい演奏をお楽しみいただけるプレーヤーです。どうぞ末永くご愛用ください。

●ダストカバーを閉めたまま、操作ボタンを押すだけで演奏が楽しめるフルオートプレーヤー。
●回転数検出には、ターンテーブルの内周に着磁された512波の信号と回転数検出用マルチギャップを組み合わせたマグネディスク方式を採用。
●トルクムラが少なく、回転がなめらかなリニアBSLモーター。

目次

安全上のご注意……2
置き場所……2
各部の名称……3
組立て……4
トーンアームの調整……5
接続……6
レコード演奏……6
　オート演奏……6
　マニュアル演奏……7
　途中で演奏をやめるには……7
　くり返し演奏するには……7
　演奏を一時中断するには……7
　ストロボとピッチコントロール……7
お使いになる際のご注意……8
針位置の調整……8
回転速度の再調整……9
針交換……9
カートリッジの交換……10
お手入れ……10
主な規格……11
故障とお考えになる前に……裏表紙
保証書とアフターサービス……裏表紙

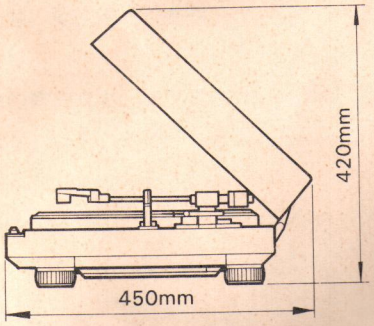
＊ハウリング
スピーカーから出る音は床や周囲の空気を振動させます。プレーヤーの置き場所が正しくないと、カートリッジがこの振動を拾い、アンプで増幅され、再びスピーカーから音が出てまた拾うというサイクルをくり返し、"ボーッ"とか"ブーッ"という音が出ます。
一種の発振現象で、これをハウリングといいます。ハウリングを防止するには、インシュレーターの使用の他に、スピーカーから離したり、方向を変えてみたり、また、ブロックなどの固い台の上にプレーヤーを置いてみることなども効果があります。

安全上のご注意

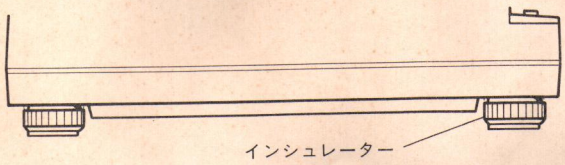
●キャビネット（上面、底面とも）は絶対にはずさないでください。内部に手を触れると感電することもあり、危険です。
●このプレーヤーは国内用（AC 100V）ですので海外では使えません。
●内部に液体をこぼしたり、燃えやすいものや金属類を落としたりしないでください。故障や事故の原因になります。
●長期間お使いにならないときは、電源コードをコンセントから抜いておいてください。その際は、コードを引っぱらず、必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードの上に重いものをのせたり、落としたりして傷をつけないように注意してください。傷がついたまま使うと危険です。
●プレーヤーに異常や不具合がおきた場合は、すぐ電源コードをコンセントから抜いて、ソニーのサービス窓口にご相談ください。

置き場所

●次のようなところは避けてください。
スピーカーの振動、ドアの開閉による振動、歩くときのゆれなどの影響のあるところ。スピーカー、テレビ、蛍光灯、ドライヤーの近く。直射日光のあたるところ。湿気、ほこりの多いところ。
●振動の少ない、水平な場所に後部を10cmくらいあけて置いてください。下図はダストカバーをあけたときの寸法です。

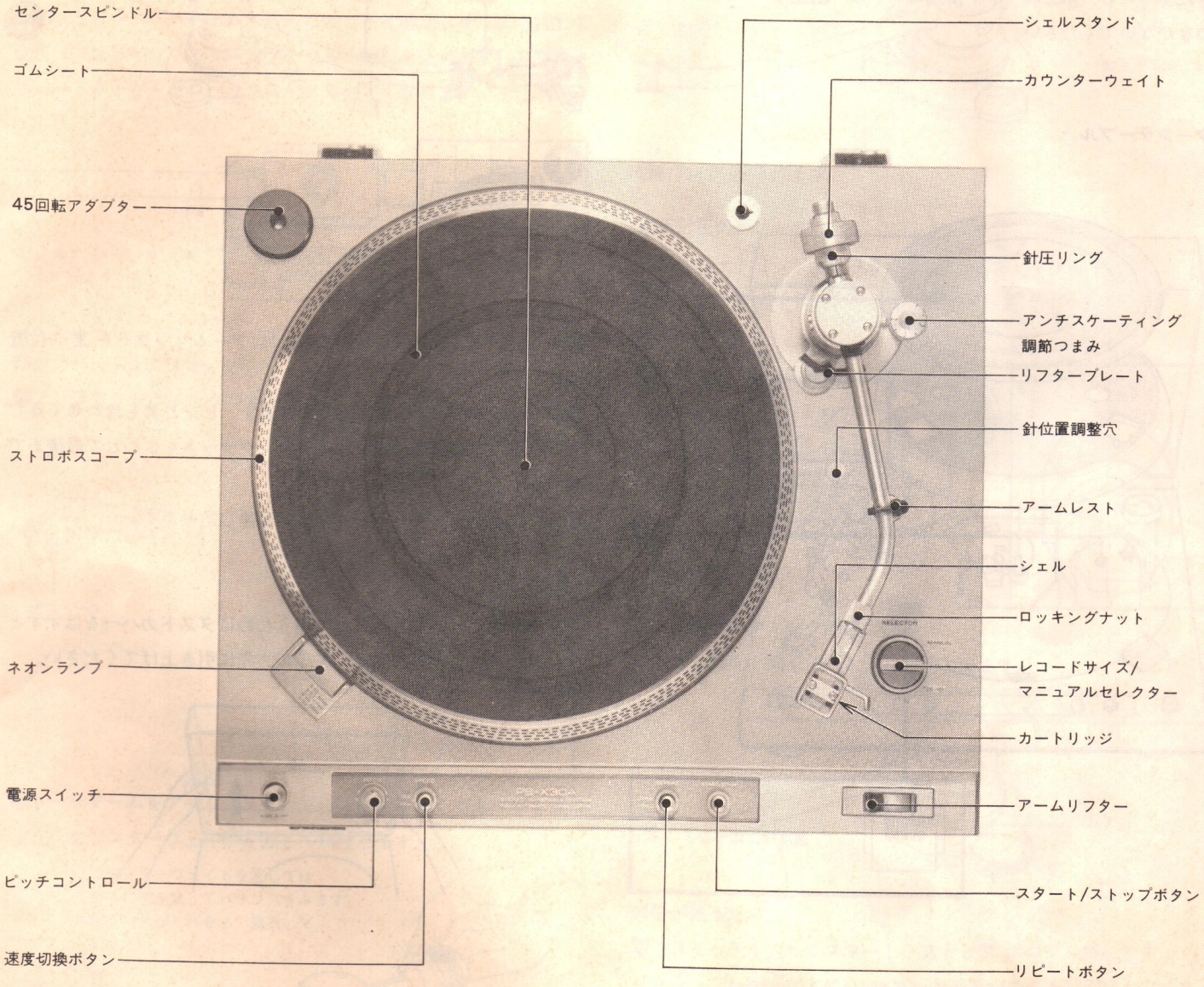


●本機には外部からの振動やハウリング*を防止するため、インシュレーター（防振ゴム足）が付いています。置き場所が水平でない場合は、インシュレーターを回してプレーヤーが水平になるよう調整してください。



各部の名称

下の写真はターンテーブルの組立てを完成したところです。
次に続く説明に従って、ターンテーブルとトーンアームの組立ておよび調整を行なってください。



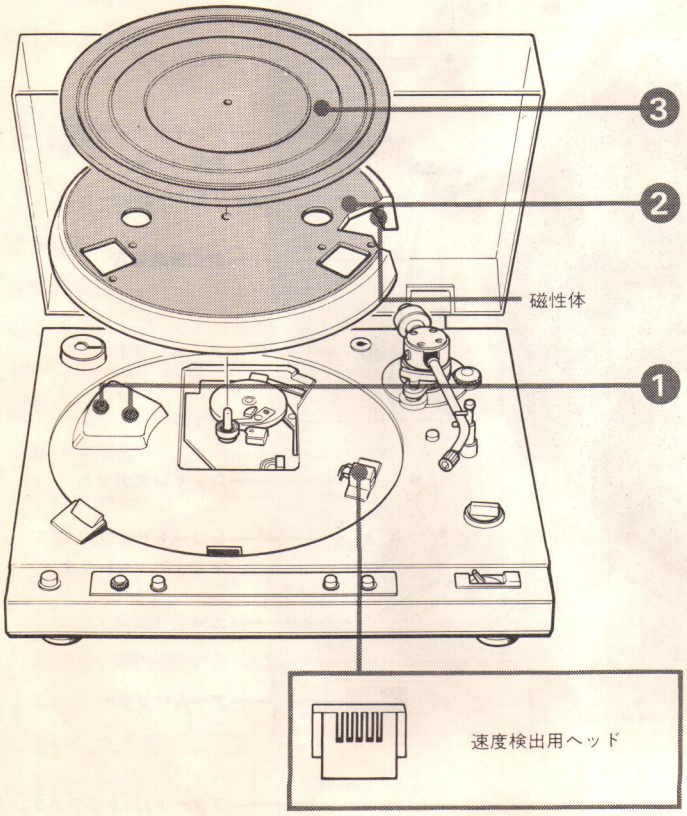
組立て

●輸送用材をすべてはずし、全体をきれいにふいてください。

●はずした輸送用材は再輸送の場合に必要ですので、保管しておいてください。

●安全のため、電源コードや接続コードは"組立て"が終わるまでつながないでください。

ターンテーブル

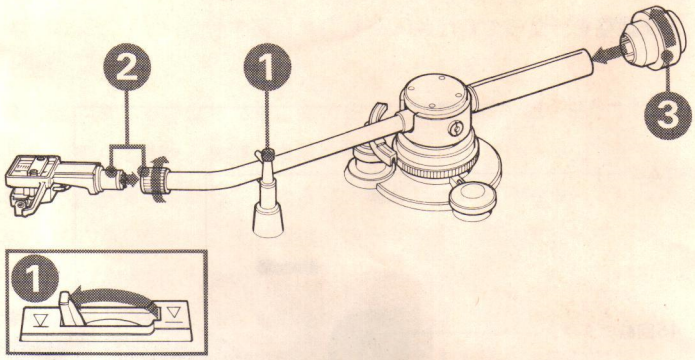


❶輸送用ネジ2本（赤）をとりはずします。
とりはずしたネジは再輸送の場合に必要ですので、保管しておいてください。

❷ターンテーブルをのせます。
このとき、ターンテーブル内周の磁性体コーティング面（こげ茶色の部分）を傷つけたり、検出用ヘッドに手を触れたりしないようにしてください。

❸ゴムシートをのせます。

トーンアーム



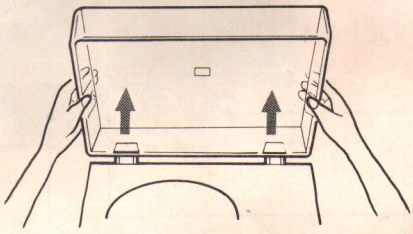
❶トーンアームをアームレストにかけ、アームリフターを▼の位置にします。

❷シェルをトーンアームにとりつけます。ピンと溝を合わせて差し込みシェルを軽く押しながらロッキングナットをまわして最後まで締めます。

❸カウンターウェイトをまわしながら差し込みます。

ダストカバー

オーディオラックなどに入れて使うためにダストカバーをはずすときは、カバーを一杯に開き、矢印の方向に引き上げてください。



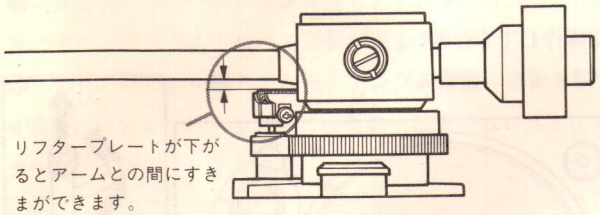
トーンアームの調整

ゼロバランス*1のとりかた

❶電源コードをコンセントにつなぎ電源スイッチをONにします。

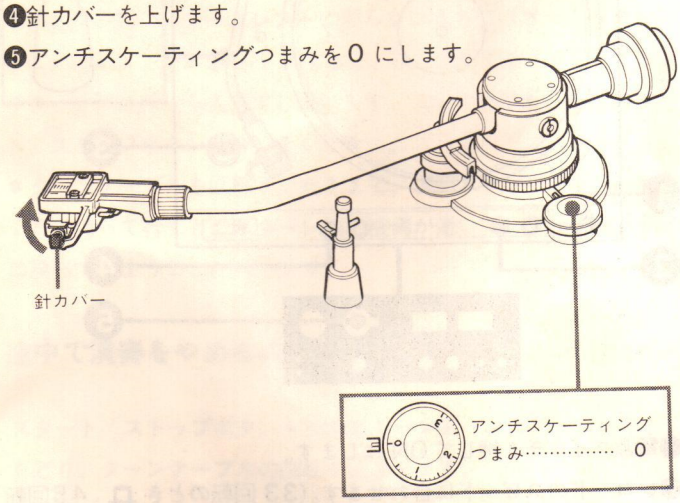
❷レコードサイズ/マニュアル セレクターをMANUALにします。

❸スタート/ストップ ボタンを押し、ターンテーブルを数回転させます。リフタープレートが下がったところで電源スイッチを押してOFFにし、同時に手でターンテーブルの回転を止めます。リフタープレートが下がりゼロバランスがとりやすくなります。

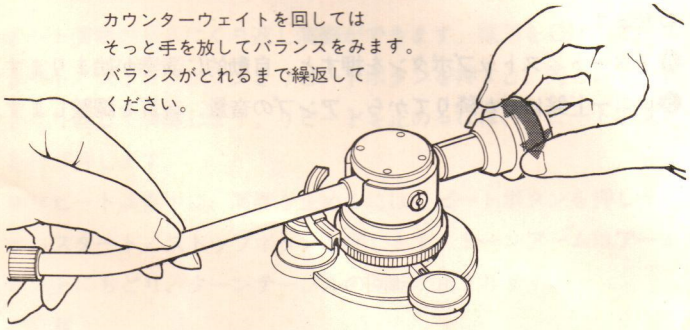


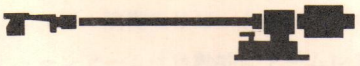
❹針カバーを上げます。

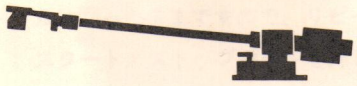
❺アンチスケーティングつまみを0にします。



❻トーンアームをアームレストからはずし手を放しても水平を保つようにカウンターウェイトを回して調整します。

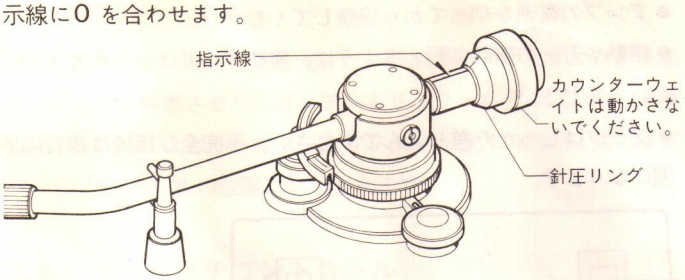



完全にバランスのとれた状態


後部が重すぎる（カウンターウェイトを前に）

頭部が重すぎる（カウンターウェイトを後に）

❼トーンアームをアームレストにとめて、針圧リングのみ回して指示線に0を合わせます。

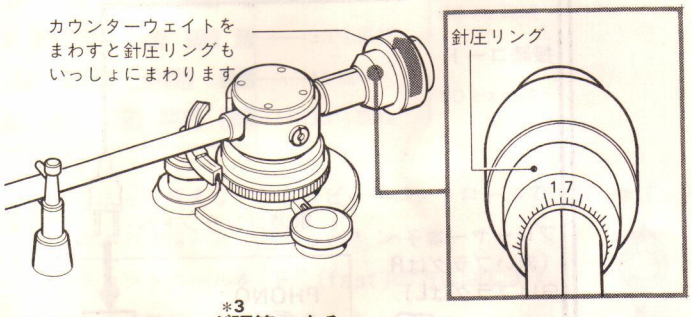


❽針カバーを下げます。

適正針圧*2のかけかた

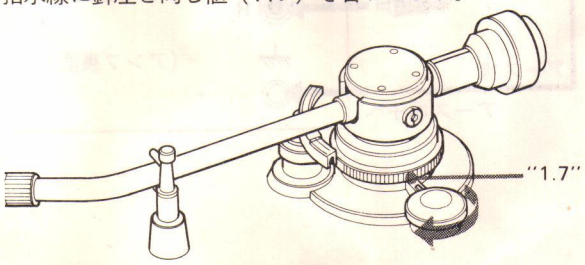
付属のカートリッジXL-15の適正針圧は1.7gです。

カウンターウェイトをまわして、指示線に針圧リングの"1.7"を合わせます。



アンチスケーティング調節つまみ*3

指示線に針圧と同じ値（1.7）を合わせます。



調整が終ったら

電源スイッチを入れてスタート／ストップ ボタンを押します。

リフタープレートが上昇し、レコード演奏ができる状態になります。

＊1．ゼロバランス

レコードをかけているとき、アームはアームベースの軸受け部で支えられた形になります。そのため、アームはまず軸受部を中心にバランスがとれた状態（水平）にする必要があります。水平になった位置を基準点にし、針圧リングで"0"とします。

＊2．針圧

ゼロバランスをとった後、針がレコードをトレースするのに必要なだけの重さを針先にかけます。これを針圧といいます。付属のカートリッジの針圧調整範囲は1.2～2.2g、適正針圧は1.7gです。針圧の不足やかけすぎは音質を悪くしたり針先やレコードを傷つけますので避けてください。ただし、カートリッジの性質は室温に多少影響されますので、カートリッジの性能を十分に引き出すためには、室温が10℃以下のときは針圧を適正よりやや重めにすると、（2.2gはこえないこと）よい効果が得られます。

＊3．アンチスケーティング調節つまみ

レコードをかけたとき、針先にはレコードの中心にひっぱられる力が働きます。アンチスケーティング調節つまみはこの力を打ち消すためのもので、カートリッジの針圧に応じて調節します。

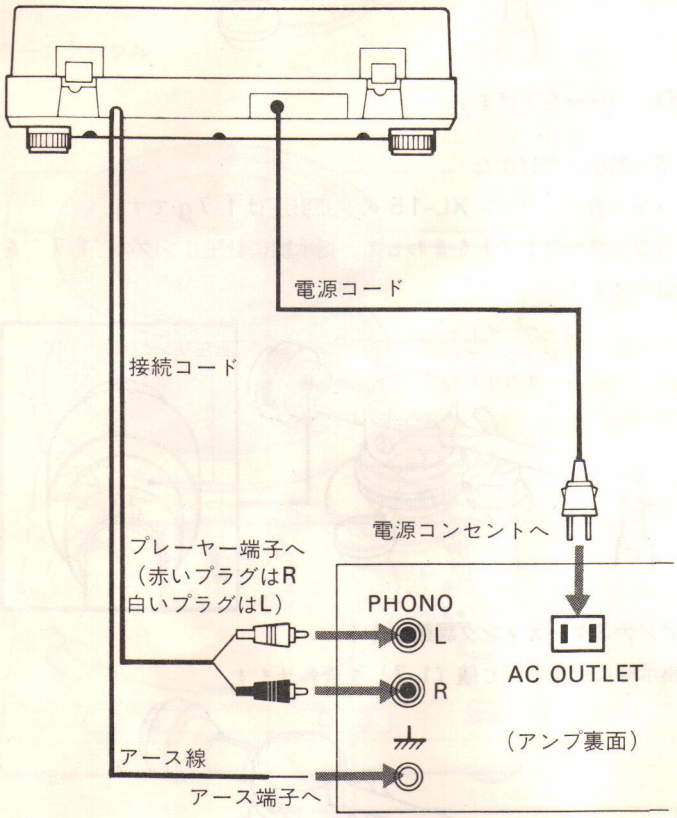
接続

ご注意

● アンプの電源を切ってから接続してください。

● 振動や万一の衝撃に耐えるように、接続コードは少したるませておいてください。

● プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は雑音の原因になります。



レコード演奏

オート（自動）演奏

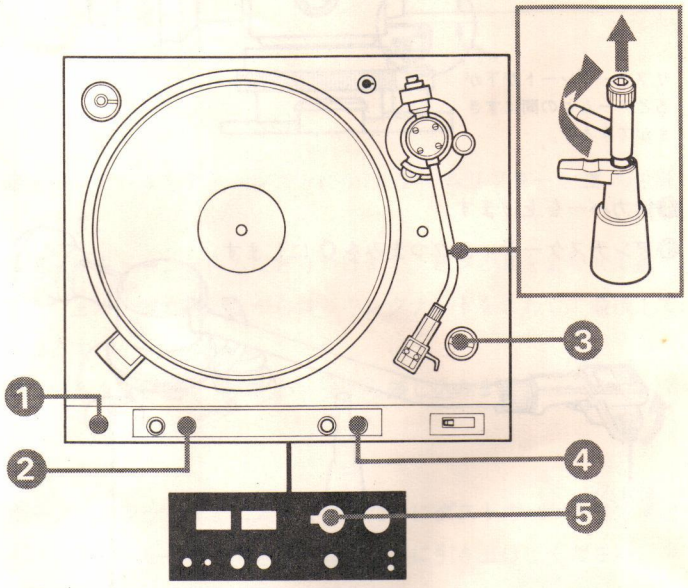
● アンプの入力切換スイッチを PHONO にし、音量を絞った状態で電源を入れます。

● レコードをのせます。45 回転（ドーナツ盤）のレコードの場合は、付属のアダプターをお使いください。

● 針カバーを上げアームレストを図のように上に引張って回します。

● アームリフターを ▼ の位置にします。

番号順に操作してください。



❶電源スイッチを押して ON にします。

❷レコードのスピードに合わせます。(33 回転のとき ⏍、45回転のとき ⏍)

❸レコードサイズ／マニュアルセレクターをレコードのサイズに合わせます。

❹スタート／ストップボタンを押すと、自動的に演奏が始まります

❺レコード盤に針が降りてから、アンプの音量、音質を調整します

マニュアル演奏(途中から演奏を始める場合など)

❶電源スイッチを押してONにします。

❷レコードのスピードに合わせます。(33回転のとき⊥、45回転のとき⊥)

❸レコードサイズ/マニュアルセレクターをMANUALにします。

❹トーンアームをレコード盤上のお聞きになりたい演奏箇所に持っていきます。

❺スタート/ストップボタンを押します。ターンテーブルが回転し始めトーンアームが下がって演奏が始まります。

❻レコード盤に針が降りてから、アンプの音量、音質を調整します。

●演奏が終わるとトーンアームは自動的にアームレストにもどり、ターンテーブルは止まります。

ご注意

●アームが完全にアームレストに戻らないうちに(オートリターン中に)電源スイッチをOFFにすると、次に使用するときに、オートリターンの動作から入ってしまいます。このときはもう一度スタート/ストップボタンを押してください。

●ターンテーブルを回転させたままで、アームをレコードの終端近くまで持って行くと、リターン検出機構が働いて、アームが自動的に戻ってしまうことがあります。

途中で演奏をやめるには

スタート/ストップボタンを押すとトーンアームはアームレストにもどり、ターンテーブルの回転が止まります。

くり返し演奏するには

オート演奏のときにくり返し演奏ができます。電源をONにし、スタート/ストップボタンとリピートボタンを押すと、同じレコードをくり返して演奏します。リピートを止めるには、リピートボタンを再び押します。

●リピート演奏中に、演奏を止めるにはリピートボタンを押しそれからスタート/ストップボタンを押します。トーンアームはアームレストにもどり、ターンテーブルの回転が止まります。

ご注意

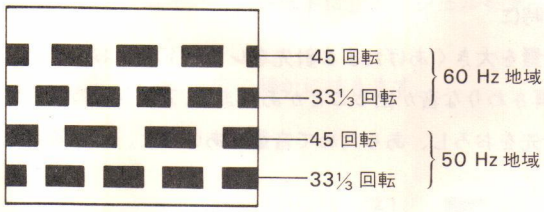
マニュアル演奏でリピートボタンをONにした場合は、演奏が終るとトーンアームは自動的にアームレストにもどりますが、ターンテーブルは回ったままですので、リピートボタンを再び押してOFFにし、スタート/ストップボタンを押して回転を止めてください。

演奏を一時中断するには

演奏の途中で、一時的に針を上げたい時やお聞きになりたい演奏箇所に直接針を移動させたい時はアームリフターを▼にします。演奏を始めるためにはもう一度アームリフターを▼にします。通常はアームリフターは▼の位置にしておきます。

ストロボとピッチコントロール

ネオンランプで照らされた個所で、選んだ回転数の縞目がとまって見えるときが、回転数が正しく調整された状態です。図のように電源周波数の違う地域では、見る縞目が異なります。



縞目がとまって見えないときはピッチコントロールで調整します。

ストロボの縞目が右に流れるとき:
ピッチコントロールを"F"(fast)の方に回します。

ストロボの縞目が左に流れるとき:
ピッチコントロールを"S"(slow)の方に回します。

お使いなる際のご注意

レコード演奏の前に

●針先のゴミは柔らかい筆やハケを後ろから前に向けてそっと動かして落とします。指先で落としてはいけません。

●水でぬらして固くしぼったカーゼなどの柔らかい布、または、市販のクリーナーでレコードをクリーニングします。スプレー式のものは、よく乾かないうちに針を降ろすとレコードに傷がつく場合がありますので、あまりお勧めできません。レコードのクリーニングはレコードをかけ終ったあとも忘れずに。

●レコードは音溝に触れないように持ちましょう。指紋や傷がつくと、音が悪くなったり、ほこりがつきやすくなるばかりでなく、針とびの原因になります。

レコード演奏時に

●アンプの音量を大きくあげたまま針先をレコード盤におろすと、"ガリッ"と耳ざわりな音が出ることがあります。アンプの音量を絞った状態で針先をおろし、あらためて音量をあげると、この雑音を防げます。

●アース線がはずれるとブーンという音（ハム）が出ることがあります。アース線は、必ずアンプのアース端子[⏚]につないでください。

●ターンテーブルが回っているときは、手で無理に止めたり、逆転(左回り)させたりしないでください。故障の原因になることがあります。

●演奏中は、プレーヤーを保護するためにダストカバーを閉じておきます。なお、ダストカバーの上には何ものせないでください。

●演奏中は、プレーヤーを動かしたり、アームに触れたりしないでください。

レコード演奏が終って

●レコードは直射日光、ヒーター、ストーブなどの高熱を嫌います。必ずジャケットに入れて、まっすぐ立ててしまってください。ターンテーブルの上に置きっぱなしにしないでください。

●プレーヤーを使わないときは、必ずダストカバーを閉じておいてください。

その他

●ターンテーブルの上にレコード以外のものをのせないでください。

●キャビネットの上にカートリッジや45回転アダプター以外のものを置かないようにしてください。

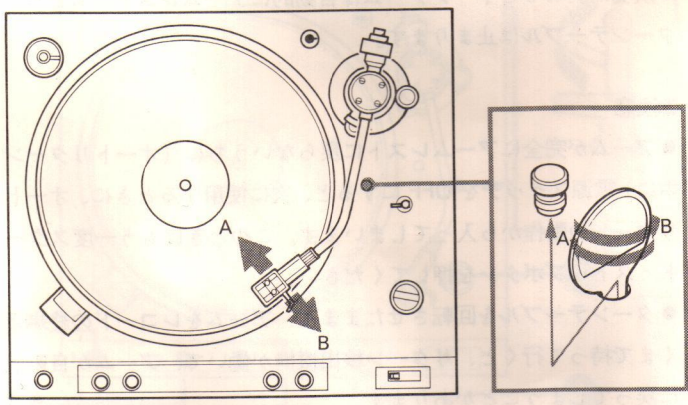
針位置の調整

レコードを自動演奏したときに、針がレコード盤上の正しい位置に降りるよう出荷時に調整されていますが、万一、ずれてしまった場合は、正しい位置に降りるよう調整します。

❶アームレストの斜め左上にある針位置調整穴のゴムキャップをとりはずします。

❷付属の金具を調整穴に入れて中のネジを、内側に移動させたい場合は右[↻]に、外側に移動させたいときは左[↺]にまわします。

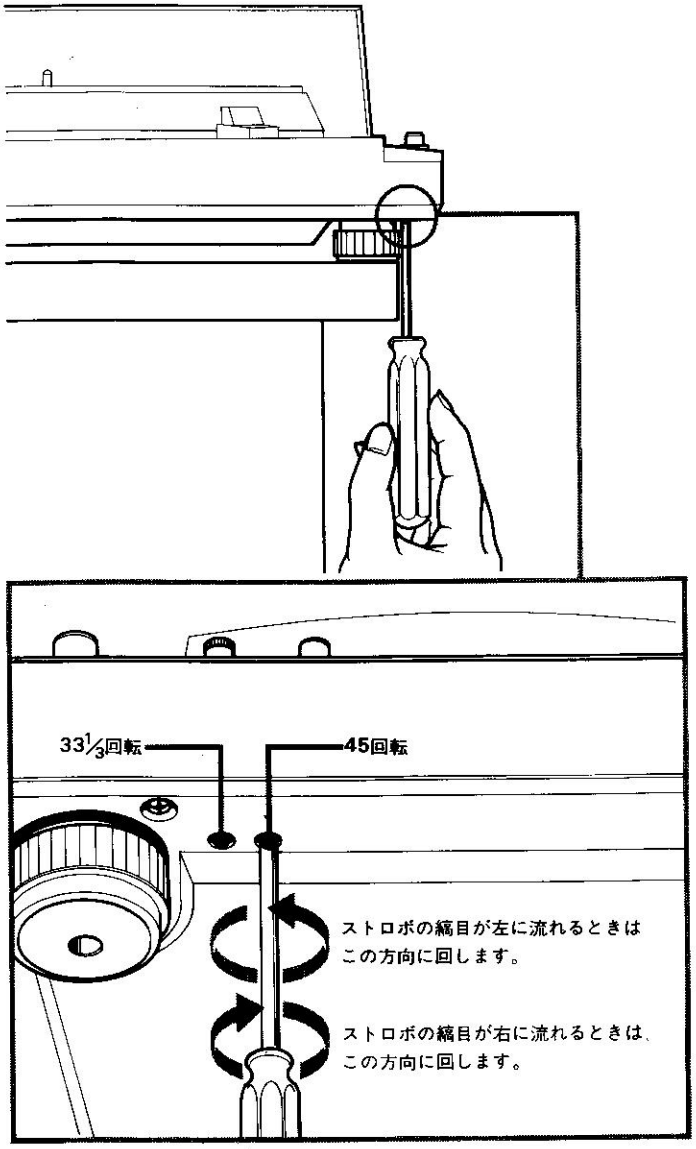
●30cmのレコードで合わせておけば、25cm、17cmのレコードの場合も正しい位置に針が降ります。



回転速度の再調整

万一、ピッチコントロールをまわしてもストロボの縞目が止まらないときは、さらにプレーヤー底面、左前足（インシュレーター）のそばにある速度調整用穴から再調整をします。回転数に合わせてそれぞれのネジを調整します。

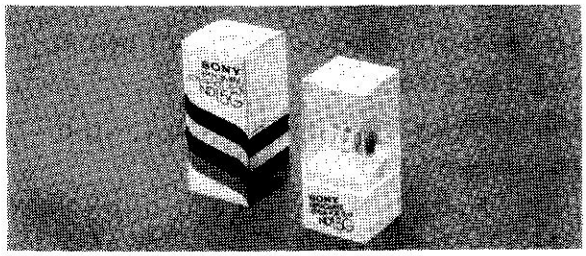
❶図のようにキャビネット前部が台よりも前に出るように置きます。
❷レコードサイズ／マニュアルセレクターを MANUAL にし、スタート／ストップボタンを押してターンテーブルを回転させます。
❸ピッチコントロールを S から F の中間位置にします。
❹速度調整用穴に小型のマイナスドライバーを差し込み、ストロボの縞目が止まって見えるまで、図のように調整します。



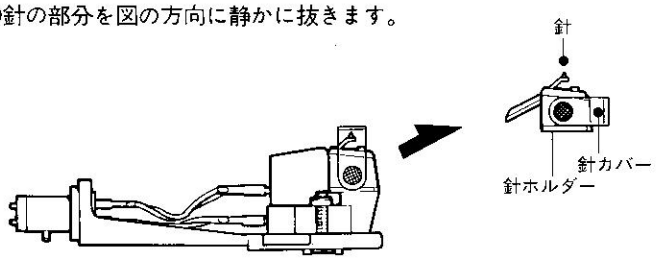
なお、調整後にストロボの縞目が多少流れてみえることがありますが、これは電源周波数の変動（±0.2%程度）がネオンランプや蛍光灯に影響しているからです。しかしこの程度の電源周波数の変動は、実用上さしつかえありませんから安心してお使いください。
（本機に使用した DC モーター、ターンテーブルは、電源周波数の変動には一切かかわりなく常に定速回転しています。）

針交換

針の寿命はレコードの質や使いかたによって異なりますが、ダイヤ針で普通は 400 時間くらいです。レコードを傷めないためにも、針は早めに換えてください。交換針は必ずソニー ND-15G（別売）をご使用ください。



❶アンプの電源スイッチを切るか、音量を絞ります。
❷トーンアームをアームレストに止め、シェルをアームからはずします。
❸針の部分を図の方向に静かに抜きます。



❹新しい針を静かに差し込みます。
❺シェルをアームにしっかり取り付けます。

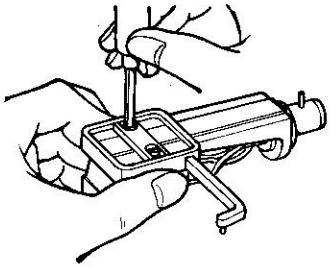
カートリッジの交換

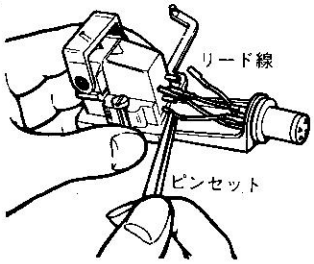
付属のシェル（自重 10.5g）使用では、補助ウェイトなしで 1.5～8.5g まで、補助ウェイトを使えば 7.5～14g のカートリッジが、お使いになれます。カートリッジの説明書も参考にして取り付けてください。

❶アンプの電源スイッチを切るか、音量を絞ります。

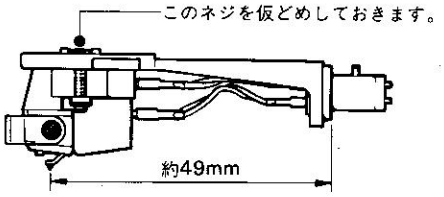
❷針カバーをおろし、トーンアームをアームレストに止め、シェルをアームからはずします。

❸2 本のネジをゆるめてカートリッジをはずし、リード線をカートリッジのピンから抜きます。





❹シェルの根元と針先の間の距離が約 49mm になるように取り付けます。あとのオーバーハングの調整のためネジは仮どめにしておきます。



❺新しいカートリッジとシェルを次のようにつなぎます。

シェルのリード線　　カートリッジのピン

白 ――→ 白、L（左チャンネル信号）

青 ――→ 青、LE または G（左チャンネルアース）

赤 ――→ 赤、R（右チャンネル信号）

緑 ――→ 緑、RE または G（右チャンネルアース）

❻シェルをトーンアームに取り付けます。

❼付属のトラッキングエラー確認ゲージを使って、オーバーハング* が正しく調整されているか確かめます。

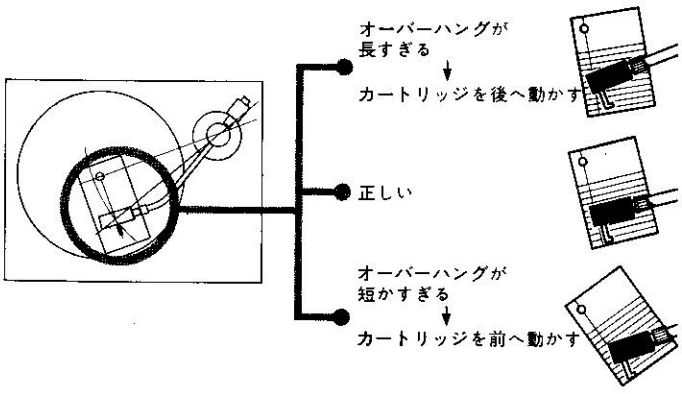
1) レコードサイズ／マニュアルセレクター MANUAL にします。

2) 電源スイッチを押して ON にします。

3) スタート／ストップボタンを押しターンテーブルを数回転させます。リフタープレートが下がったところで電源スイッチを押して OFF にし、同時に手でターンテーブルの回転を止めます。

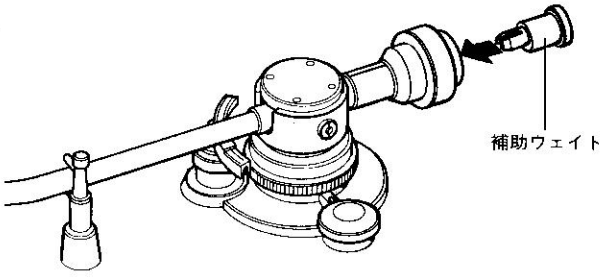
4) ゲージの丸穴をターンテーブルのスピンドルに入れます。

5) ゲージの上の細い 2 本の直線の交点に針先を静かに降ろします。シェルがゲージの太い線と平行していれば、オーバーハングは正しく調整されています。平行でないときは、次の図のように調整しなおし、正しく調整したらネジをしめます。この際アームをアームレストに止めてからカートリッジを動かすと、針先を傷めるおそれがありません。



❽トーンアームを"トーンアームの調整"（5 ページ）に従って調整しなおします。カートリッジが 7.5～14g の場合は、付属の補助ウェイトを取り付けます。

補助ウェイトは最後までしっかり差し込んでください。



＊オーバーハング

レコードのみぞを刻んで行くカッターヘッドの動きは、中心に向かって直線ですが、アームはアーム軸を支点として動くため、針先はレコード盤上で孤を描きます。この動きの違いが再生音に影響を与えるため、アームがカッターヘッドの動きに近い状態で動くようにアームには角度（オフセット角）をつけ、さらにこのプレーヤーでは針先がセンタースピンドルから16.5mm前方になるように、カートリッジを取付けます。これをオーバーハングといいます。

お手入れ

● このプレーヤーは注油の必要はありません。

● キャビネットは柔らかい布でときどきからぶきしてください。アルコールやベンジンなどの溶剤やぬれた布などは使わないでください。表面の仕上げを傷めます。

● ゴムシートが汚れたときには、水洗いして陰干ししてください。

主な規格

ターンテーブル部

ターンテーブル	31.3cm、アルミダイキャスト
モーター	リニアBSL（ブラシアンドスロットレス）モーター
駆動方式	ダイレクトドライブ
回転数	33 1/3 、45rpm
速度調整範囲	±4％
ワウ・フラッター	0.03％WRMS
S/N	70dB（DIN-B）
オートマチック方式	リードイン、リターン、リジェクト、リピート

トーンアーム部

トーンアーム	スタティックバランス型ユニバーサルトーンアーム
有効長	216.5mm
全長	300mm
オーバーハング	16.5mm
トラッキングエラー	+3°、−1°
針圧調整範囲	0～3g
シェル自重	10.5g
使用可能カートリッジ（付属シェルを含む）	12～19g 18～24.5g（補助ウェイト使用）

カートリッジ

タイプ	MM型（XL-15）
周波数特性	10Hz～30kHz
チャンネルセパレーション	25dB（1kHz）以上
出力電圧	4mV（1kHz、5cm/s、45°）
最適負荷インピーダンス	50kΩ
針圧（最適針圧）	1.2～2.2g（1.7g）
交換針	ND-15G
重さ	5.2g

電源、その他

電源	AC 100V、50/60Hz（周波数切換不用）
消費電力	6W
大きさ	445×145×400mm（幅/高さ/奥行）最大突起部を含む
重さ	7kg
付属品	45回転アダプター、ヘッドシェル補助ウェイト、針位置調整用金具トラッキングエラー確認ゲージ
別売アクセサリー	交換針 ND-15G（XL-15用） カートリッジ MM型：XL-15, XL-25 XL-45 II MC型：XL-55, XL-55 Pro シェル SH-145, SH-160, SH-165 ヘッドアンプ HA-55

本機の規格および外観は予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

故障とお考えになる前に

音が悪い

- 適正針圧ですか。（5ページ"適正針圧のかけかた"）
- 針先にゴミがついていませんか。
（8ページ"お使いになる際のご注意"）
- 針やレコードが磨り減っていませんか。（針の寿命はダイヤ針で400時間くらい）
- カートリッジに針がきちんと取り付けられていますか。
- ゼロバランス調整は正しいですか。（5ページ"ゼロバランスのとりかた"）
- アンチスケーティングつまみは正しく合わせてありますか。
- 水平に置かれていますか。
- スピーカーの上に置かれていませんか。

片側のスピーカーから音が出ない

- シェルはトーンアームにしっかり締めつけられていますか。
- シェルの接触不良ではありませんか。（シェルのコネクターを純アルコール液で拭く）
- 接続コードはしっかり差し込んでありますか。
- アンプのバランス調節つまみが片方に絞られていませんか。

針とび、針が流れる、アームが途中で進まない

- 適正針圧ですか。
- 水平に置かれていますか。
- アンチスケーティングつまみは正しく合わせてありますか。
- レコードに傷がついていませんか。

ハム(ブーンという音)が入る

- アース線はアンプにしっかりつながれていますか。
- シェルはアームにしっかり締めつけられていますか。
- カートリッジを交換した場合、シェルのリード線はカートリッジに正しくつながれていますか。

保証書とアフターサービス

保証書について

- この製品には保証書が添付されていますので、お買上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
- 万一故障した場合の無料修理期間はお買上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

調子が悪いときはまずチェックを	➡"故障とお考えになる前に"の項を参考にして、故障かどうかお調べください。
それでも具合の悪いときはサービスへ	➡お買上げ店、または添付の"サービス窓口のしおり"にあるお近くのソニーサービス窓口に修理をお申しつけください。
保証期間中の修理は	➡保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
保証期間経過後の修理は	➡修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理いたします。

なお、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は製造打切り後8年です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。

出張修理をご依頼になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：PS-X30A
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日
- 住所、氏名、電話番号、道順
- 訪問希望日

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買上げ店またはソニーのサービス窓口、ソニーインフォメーションセンターにお問合せください。

ソニー株式会社 〒141 東京都品川区北品川6-7-35 お問合せ ソニーインフォメーションセンター (03) 448-3311 Printed in Japan 3-770-786-01 (2)